



知床科学委員会 しんぶん

海域ワーキンググループ No.6

知床半島の海域の保全に向けて、海域ワーキンググループではどのようなことが話し合われたのかお伝えします。

平成28年度の主な活動内容

平成28年度は会合を2回開催しました。

- ・第1回 平成28年8月 4日、羅臼町で開催
- ・第2回 平成29年2月21日、札幌市で開催



第2回会合の様子

<主な内容>

・知床の海域に関する調査（モニタリング）結果について

知床の海域に関連して水温やサケ類、アザラシ類、海鳥など12項目のモニタリングが行われており、平成27年度のモニタリング結果からどのようなことがわかるのかを話し合いました。

（裏面ではその一部を紹介しています。）

・海域管理計画について

平成30年度からスタートする新しい計画（第3期）を、どのような内容にするか話し合いました。

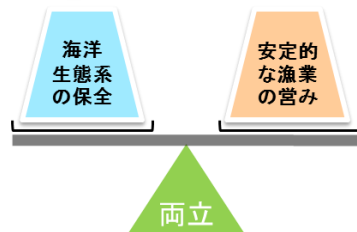
複数のモニタリング結果を重ね合わせて、気候がどのように変動しているのか、生態系や生息する生き物の状況、そこに生活する方々の社会経済がどのように変化しているのかを分析して、変化に対応できる計画にすることとしました。

また、そのために必要なモニタリングの項目の見直しについても話し合いました。

海域管理計画とは

名称：多利用型統合的海域管理計画

遺産地域内の海域における保護管理の基本的な考え方や保護管理措置の対応方針などを明らかにしたものです。



遺産地域内海域における海洋生態系の保全と、持続的な水産資源利用による安定的な漁業の営みの両立を目的としています

・世界遺産委員会決議に対する保全状況報告について

平成27年に開催された第39回ユネスコ世界遺産委員会では、知床でのトドの個体数を維持するために、採捕上限頭数を定期的に点検・調節することなど、知床の保全状況についての勧告が決議されました。

海域ワーキンググループではこのうち、トドの管理に関して、トドの捕獲数の現状と今後の見直し手法やトドの来遊状況調査の手法などについて文案を作成しました。

なお、本案は国による調整を経て昨年11月に日本政府からユネスコ世界遺産センターに提出されました。



第1回会合の様子

モニタリング結果からわかること

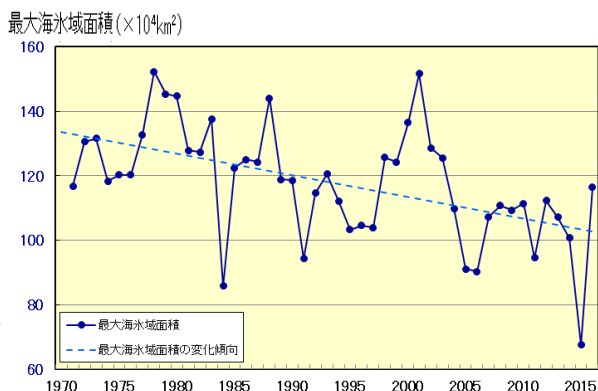
モニタリングの一部について、その結果をご紹介します。

＜海氷：海氷面積の長期変化傾向＞

- ・2015/16年のオホーツク海南部の海氷面積は、過去最低レベルでした。
- ・オホーツク海全体でみても、海氷面積の長期的な減少が進行しています。 右図：オホーツク海の家氷域面積の経年変化

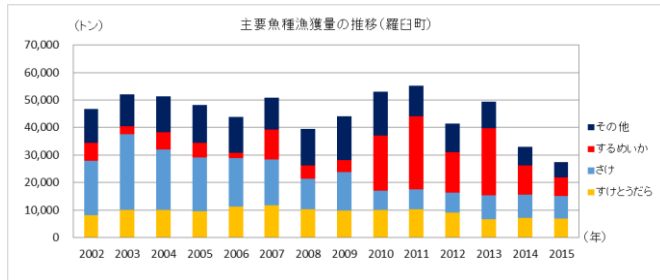
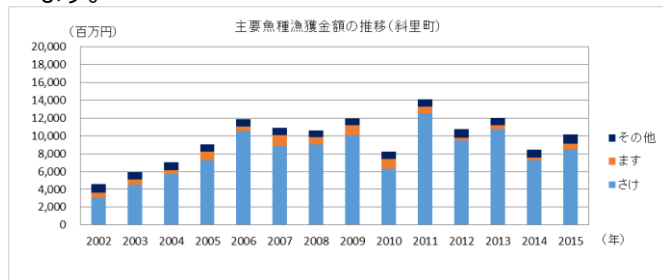
出典：気象庁ウェブサイト

http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/shinda/n/a_1/series_okhotsk/series_okhotsk.html



<漁獲量：魚種別の漁獲量の変化>

- ・2015年の両町合計の漁獲量は46,814トン、漁獲金額は20,926百万円であり、それぞれ全道の4.7%、6.7%を占めています。
- ・斜里町の魚種別推移はさけ類の占める割合が非常に高い状況に変化はありませんが、羅臼町の魚種別推移は、漁獲量、漁獲金額とも近年さけ類の占める割合が減少傾向にある一方で、するめいかの割合が増加しています。

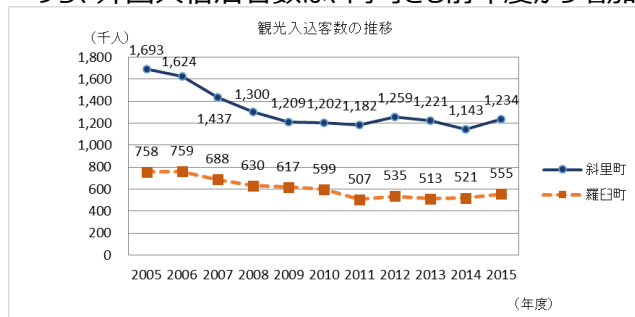


上図：主要魚種漁獲量の推移
(斜里町、羅臼町)

出典：北海道「北海道水産現勢」

<観光入込客数：観光客入込数の動向>

- ・2015年度観光入込客数は前年度に比べ、斜里町が8.0%増、羅臼町は、6.5%増となりました。
- ・うち、外国人宿泊者数は、両町とも前年度から増加し、斜里町が43.7%増、羅臼町は24.7%増となりました。



上図：観光入込客数の推移、訪日外国人宿泊者数の推移（斜里町、羅臼町）

出典：北海道「北海道観光入込客数調査報告書（平成27年度）」

会議の内容をもっと知りたい方はこちら

知床データセンター

<http://dc.shiretoko-whc.com>



第2期海域管理計画も
ご覧いただくことができます。

◆お問い合わせ先◆

北海道環境生活部環境局生物多様性保全課

〒060-8588

札幌市中央区北3条西6丁目

電話 011-231-4111 (代)

内線 24-357

<平成29年3月発行>

2008年以降、本道へのサケ（シロザケ）の来遊数は減少傾向にあります。カラフトマスの来遊数には急激な減少がみられていましたが、2016年には一転して大幅な増加に転じました。

知床半島はサケマス類の重要な生息地であり漁業生産地です。モニタリング調査等を通じて、サケマス類の漁業生産の維持のために少しでも貢献できればと思っています。



委員の
宮腰です

地方独立行政法人北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場さけます資源部長。北海道のサケマス類の放流効果や資源評価に関する研究をしています。